

乳腺外科

■ スタッフ

科長		小川 朋子
副科長		花村 典子
医師数	常 勤	9 名
	併 任	1 名
	非常勤	2 名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

当科は乳癌を中心に、乳腺に関連した疾患の診断と治療を行っています。

乳癌検診の普及に伴い、小さな病変や診断に難渋するような病変が指摘される機会も増加しています。当科ではマンモグラフィ、超音波検査、MRI や造影超音波検査などの画像診断と、細胞診・針生検・吸引式組織生検を用い、病変の正確な診断を行っています。また、乳癌手術では近年、乳房温存手術を行うことが多くなり、診断の際には単に癌であることを診断するだけでなく、癌の広がりや正確に診断し、乳房温存手術が安全に行えるかを見極めることが重要になっています。当科では、各種画像診断と生検を駆使して、より安全な乳房温存術を行うよう努めています。

乳癌手術においては、より侵襲の少ない手術を行うため、cN0 の症例に対してはセンチネルリンパ節生検を行っています。単に病変部を取り切るだけでなく、残る乳房の形も、よりきれいな形で残るよう手術方法を工夫しています。

■ 診療体制と実績

1. 外来診療体制

初診は月曜日から金曜日、午前 8 時 30 分から 10 時まで受け付けています。また、小川教授の外来は完全予約制としており、医療連携を通じての予約が必要となっています。

● 外来患者数の推移

	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年
新患	1,080	1,087	1,009	975
再来	7,000	8,270	8,625	9,321
計	8,080	9,357	9,634	10,296

細胞診・針生検などの病理検査は月曜日・火曜日・金曜日の午後に行っており、ステレオガイド下あるいは超音波ガイド下吸引式組織生検も行なっています。

<2012 年検査件数>

細胞診	約 1200 件
針生検	約 800 件
ステレオガイド下吸引式組織生検	約 70 件
超音波ガイド下吸引式組織生検	約 100 件

2. 手術体制

水曜日・木曜日を手術日とし手術を行っています。局所麻酔による手術も同日に行っています。

<2012 年度当科手術件数>

乳癌手術	297 件
腫瘍摘出術（線維腺腫・葉状腫瘍など）	33 件
その他（追加切除・切除生検など）	34 件

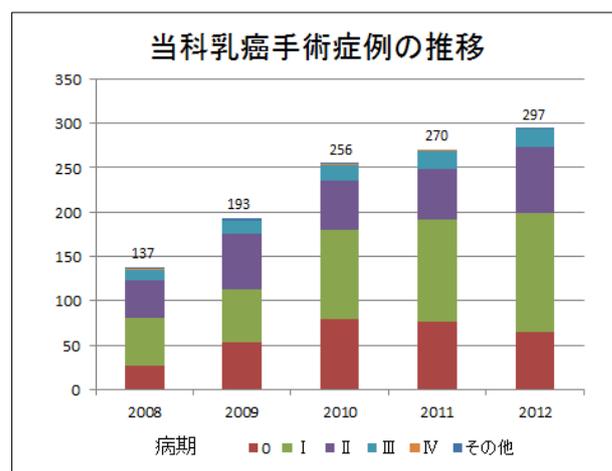


図 1：2008-2012 年当科乳癌手術症例数の推移

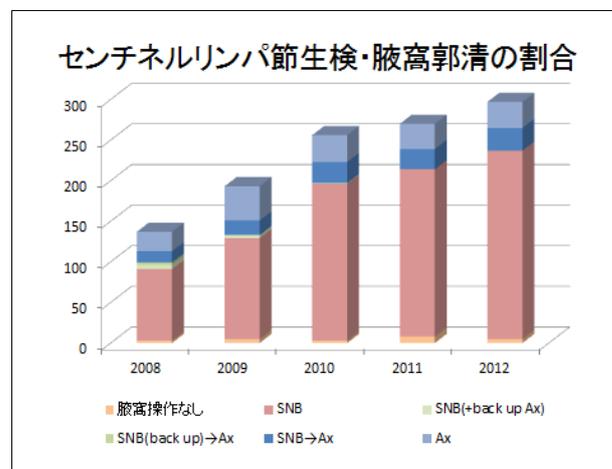


図 2：当科手術におけるセンチネルリンパ節生検・腋窩郭清施行例の推移



図3：当科乳癌手術における術式（乳房切除・部分切除）選択の推移

■ 診療内容の特色と治療実績

1. 整容性を考慮した手術

早期癌の増加に伴い、治癒可能な乳癌が増え、近年では根治性ととも整容性を保つ *oncoplastic surgery* という言葉も広まってきました。乳房の大きさや形、性状は個人差があり、また腫瘍の位置も異なるため、それぞれに応じて術式を検討することが重要となります。

乳房温存手術で整容性を保つ手技としては乳房内の組織を授動し充填する *volume displacement* と乳房外の組織を用いて充填する *volume replacement* があります。*volume displacement* では、*Lateral/Medial mammaplasty*、*B-plasty*、*Inverted-T mammaplasty* など、*volume replacement* としては、乳房下溝線部脂肪筋膜弁、背部穿通枝皮弁、*abdominal advancement flap* などの手技があります。当科では乳腺外科医のみで可能な侵襲の少ない手術で、これらの手技を用い整容性が保たれるよう工夫しています。また、組織拡張器を用いた乳房再建も行っています。

形成外科医とも連携をとり、埼玉医科大学総合医療センター形成外科 山川知巳先生（月1回）や、横浜市立大学附属市民総合医療センター形成外科 佐武利彦先生（不定期）による乳房再建外来も行っています。乳房再建外来は完全予約制としています。

患者さん向けに、乳房再建についての一般説明会も行っています。

2. 早期癌の診断

検診で指摘された小さな病変に対してマンモグラフィや超音波検査、病理組織学的検査で確実な診断

を行うように努めています。最近では低悪性度の非浸潤性乳管癌や異型乳管過形成といった診断が難しい症例も増えてきていますが、細胞診・針生検で診断が難しい症例に対しては吸引式組織生検を施行し、診断を行うようにしています。

この結果、当院の手術例は早期例が多く、2008-2012年の当院手術施行例において Stage0 は 26.4% (304例/1153例)、Stage I までで 66.3% (765例/1153例) を占めました。

ソナゾイドを用いた造影超音波検査や、放射線診断科と協力して MRI ガイド下マンモトームも行っています。

3. チーム医療

腫瘍内科・放射線科・病理部と連携したチーム医療を行っています。

診断においては、放射線診断科・病理部と連携をとり、週1回の MRI カンファレンスや、月1回の画像診断カンファレンスを行っています。

治療においては、術前・術後の補助療法について、腫瘍内科・放射線治療科と隔週でカンファレンスを行い、患者1人1人について治療方針を相談し決定しています。

■ 先進医療・臨床研究等の実績

研究としては、乳房超音波検査におけるコンピューター画像診断支援システム、乳癌の予後予測のバイオマーカーの開発や、磁性流体を用いたセンチネルリンパ節生検などを行っています。

HP <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)